特集2

ISO/TC204/WG18・CEN/TC278/WG16 合同京都会議について

西部　陽右
ITS・新道路創生本部

ISO/TC204/WG18 における協調システムの国際標準化活動については別稿及び本誌バックナンバーで詳しく解説していますが、去る 2011 年 12 月 5 日（月）～ 7 日（水）、ISO/TC204/WG18 および CEN/TC278/WG16 の合同会議が、当機構の主催のもと、京都リサーチパーク（京都市中京区）において開催されました。

当機構は、2009 年 12 月にドイツ・シュツットガルト近郊のホーエンシュタインで開催された予備会議（ISO/TC204/WG16 との合同会議）および正式な第 1 回会議となる 2010 年 4 月のニューオーリンズ会議（ISO/TC204 総会に合わせて開催）以来、すべての WG18 国際会議および関係会議に職員を派遣し、情報収集および日本として必要な意見提示を行ってまいりました。また、国内においては、2010 年 8 月より WG18 国内分科会の引受団体となり、関係諸団体とともに対応にあたってきました。

2010 年 10 月には日米の、2011 年 6 月には日欧のそれぞれ政府レベルで ITS 分野における協力覚書が交わされ、協調システムの標準化についての日米欧の協力体制が確立されましたが、当機構は、WG18 の場においても日米欧の積極的な協力体制を示すことと、日本からの情報発信を促進するという立場から、WG18 国内分科会の引受団体として今回の京都会議を主催したものです。

リーマンショックやユーロ危機による欧米経済の冷え込みや、3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響等により、当初は参加者がかなり少なくなることも予想していましたが、結果的には、日本および韓国からの参加を含めた総勢約 40 名と、WG18 の主要メンバーの大半が

写真 1　規格原案作成チームでの議論の 1 コマ

参加する盛会となりました。

会議は、最初の２日間は、主に標準化のテーマごとの規格原案作成チーム（DT：Drafting Team）に分かれて、規格開発の方針や具体的な規格原案（ドラフト）の検討を行い、最終３日目は全体会議として、今後の議論の進め方などについて討議を行いました。

欧州委員会がCENおよびETSIに求める協調システムの標準作成の期限が本年７月に迫り、今後、WG18での議論はさらに加速される見通しです。当機構は、WG18国内分科会の引受団体として、今後も情報収集および日本からの的確な意見提示に努めていくこととします。

写真２・３　WG18総会の様子